

「リゼットと かたっぽくつした」

とてもいい おてんきのひ
リゼットは おさんぽに でかけました。

すこし あるくと おうちの ちかくで
くつしたを つけました。
「かわいい みどりいろの くつしただわ！」

「これってラッキーね。だって こんなに すてきな
くつした なかなか みつからないもの！」
と ひとりごとを いいました。
リゼットはくつしたを はいて ごきげんです。

そのあと すぐに トムキヤットさんと
ティムキヤットさんの ところへ はしりました。
この きょうだいは いつも リゼットを からかっています。

「みて！ これ あたしが みつけたのよ！」
とリゼットは じまんげに いうと ふたりは

松本 心夏

「かたほうしか ないじゃないか！
きみは まぬけだな リゼット」

「それで もうかたほうは どこにあるんだい
くつしたは りょうほう ないといけないんだよ」

「そう… これじゃ いけないのね。もうかたっぼ さがさなくちゃ」

リゼットは このまちを う〜んと みわたせる
いちばん おおきな き にのぼりました。

しかし おおきな き にのぼっても
くつしたの かげすら みえません。

「わかったわ！ あの うみの なかに おちちゃったのね」
リゼットは おおきな き から おりて うみの ちかくに いました。

つめたい みずのなかを さがしていると
いっぴきの おさかなさんが やってきました。

あの おさかなさん なら たすけて くれるかも しれません！

「こんにちは おさかなさん かたっぼ だけの
くつしたをみなかった？」

「いや みてないなあ でも ほら さっきそこで
おおきな コーヒーポットと
ちいさな くまでをみつけたんだ！
みずのなかに おちてくる ものは どれも すてきだね！」

松本 心夏

と おさかなさんは げんきに いいました。

「そうね…でも あたしは くつしたを さがしているの」

がっかりした リゼットは おうちに かえりました。

「どうしたの リゼット とっても かなしそうな かおを しているわ」
と おかあさんが きくと

「くつしたを さがしていたのよ でも みつからなかったわ
かたっぽだけじゃ いけないのに」

「そうね かたほうだけじゃ そとをあるけないわ おくつみたいだね
さあて よごれを おとしましょう おちてた くつしたは
きれいにしないと」

リゼットは くつしたが かわくまで じーっと まちます。

「それって きみの ぼうし？」

いきなり こえが きこえたので ふりかえってみると

松本 心夏

そこには ともだちの バートが いました。

「ぼうしじゃないわ くつしたよ」と リゼットはおしえます。

「そうなんだ でも ああいう ぼうしを かぶるのが ぼくの
ゆめだったんだ ちょっと かぶってみても いいかな」

「ええ かぶってみて！」

リゼットは あはは！と わらいながら いいました。

「このくつした あなたに ぴったりね！」

「これは いいぼうしに なるね」

「そうだわ！くつしたが りょうほう そろったら
かたっぽは バートにあげる！」とリゼットはいいました。

すると トムキャットさんと ティムキャットさんが
そろ〜っと あらわれて 「キンコーン！」と
ティムキャットさんが よびかけました。

「みてくれ ぼくたちが みつけたんだ
リゼット…きみが さがしていた くつしただよ！」

「どこで みつけたの！？」と リゼットがきいても
ふたりは こたえて くれません。

どンドン とおくへ 行ってしまいます。

「ほしけりゃ ついてきな！」

リゼットと バートは いっしょうけんめい おいかけました。

「ヒュ～！ちびっこのくせに あしは はやいんだな」

いじわるな トムキャット。

「それでも もう みつけることは できないね」
と ティムキャットさんがいうと くつしたを ポチャン！

リゼットと バートは ようやく おいつきました。

「トムキャットさん ティムキャットさん！
くつしたは どこ？」

「くつした？もう なにも もってないよ ほらね？
くつしたは そらを とんでいっちゃったんだ」

バートはリゼットの すそを ひっぱり いいました。

「わすれよう あのふたりは いじわるで うそつきだ
くつしたが そらを とぶはずない」

「ひどいわ…もう あのくつしたは みつからないのね

松本 心夏

でも もし あなたが そのくつしたを きにいつているなら
おうちに かえるまで かぶってて いいわよ」

「やさしいね」と バートは ちいさな こえで いいました。

おうちに かえると ふたりは びっくり！

リゼットの おかあさんが あたらしい くつしたを
あんで くれて いました。

「みどりいろだわ！あの くつしたに そっくり！」

リゼットは お〜きく とびはね おかあさんに だきつきました。

「リゼットも あたまに かぶるの？」

と おかあさんが きくと

「バートみたい？」

「もちろん！ リゼット とっても うれしそうね」

「おそろいだね リゼット！」

バートは うれしそうに おどり はじめました。

すっかり よるになり バートは おうちに かえりました。

リゼットは ベッドに はいり かんがえました。

(きっと バートも あたしみたいに くつしたを かぶって ねているわ)

松本 心夏

リゼットは しあわせな よるを すごしました。

しかし このよる いちばん しあわせに すごしたのは
おさかなさんでした。

なぜなら おさかなさんには
おきにいりの ちいさな くまでと おおきな コーヒーポット
そして ねごちのよい みどりいろの ねぶくろが あるから。

